

前回(11月18日付)は、金長約3千歩の「九州自然歩道」で、大分県のユースホステル山国屋から羅漢寺までの歩き旅でした。今月は、急流の名所として知られる洞鳴瀑布(同県中津市本耶馬渓町)に向けて歩を進めます。

羅漢寺を出てトンネルを抜けると、右側に公衆トイレがあります。トイレの看板には「東司」と書かれています。東司とは禅寺においてトイレを意味する

羅漢寺—木ノ子

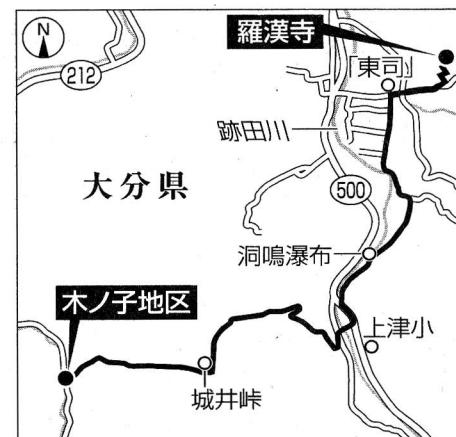
洞鳴瀑布の轟音を聞き

言葉だそうです。詳しいことは不明ですが、もともとトイレの守護神を指していたそうです。

ここからは、のんびりとした里山道。田園風景の背後に見え切り立った山々の地形は青の洞門ならでは。1・4キロほど歩くと自動車の走行音すらかき消

あるー! 九州自然歩道の旅②

福島 優



上車の走行音をかき消すほどの水音が響く洞鳴瀑布
下やぶをかき分け道なき道をさまよいました

洞鳴瀑布を過ぎるときれいな舗装路に出ます。「道祖原」と書いて「さいの」と呼ばれる地区です。「長野地区」への方向を示す看板を右折し、跡田川を渡り、城井峠へ向かいます。舗装された緩やかな道を上っていくと周辺集落を望むことができます。山々も間近に見えてきました。

そして、木ノ子地区の集落に到着。こゝまで来ると自然歩道の看板も分かりやすく立っています。峠越えをしているときに飲み物をだいぶ消費してしまつたため、どうしようかと思つていたら、集落の方が話しかけてくれました。わいわいと話をしていると、家がすぐそこまでありました。わいわいと話してお水を分けていただけました。これも長距離の歩き旅の醍醐味です。しかし、九州自然歩道については知らなかつたようで、まだまだ、地元の方

の…。作業用らしき道がいくつも分岐していたり、やぶになつてたりして、地図にあるような道が見当たらせん。道ども思えないような道を行き、やぶをかき分け、斜面を登り、木々を乗り越えて、1~2時間ほどさまよい歩いてようやく峠の反対側の道にたどり着くことが

日々には知られていないことを実感しました。

今回は、羅漢寺から木ノ子までの約5キロ、3時間の旅でした。次回はさらに森の中へと向かいます。

(九州自然歩道フォーラム会員
II福岡市)
II毎月第3水曜掲載